

指定管理者評価シート

事業名	札幌市民交流プラザ運営管理費	所管課(電話番号)	市民文化局文化部文化振興課(211-2261)
-----	----------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市民交流プラザ	所在地	中央区北1条西1丁目
開設時期	平成30年10月	延床面積	37,332㎡
目的	文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の質の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与することを目的とする。		
事業概要	札幌文化芸術劇場等、施設の管理運営。文化芸術振興のための主催事業の実施。		
主要施設	札幌文化芸術劇場、札幌文化芸術交流センター、札幌市図書・情報館(※教育委員会の直営)		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	平成28年4月1日～令和2年3月31日		
募集方法	<p>非公募</p> <p>札幌市民交流プラザは様々な文化芸術に触れる機会の提供やアートマネジメント人材の育成などを担う施設である。</p> <p>本市の文化芸術施設間の連携の中心拠点となり、幅広い分野の事業展開を行う札幌文化芸術交流センターは、文化芸術施策の一体的な推進を図るため、市内各文化芸術施設との一体的管理が必要である。</p> <p>また、スタッフの人材育成については、長期的に行っていく必要があることや、さらに、設置目的に沿った運営を行っていくために、札幌市による指定管理者への継続的かつ積極的な関与が必要であることから、非公募とした。</p>		
指定単位	施設数：1施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務(利用料金制度)、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数：1施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：		

II 元年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>▼ 「文化芸術活動及び生涯学習の振興並びに人々の来訪及び交流の促進を図り、もって市民の創造性を育むとともに、市民生活の向上を実現するほか、地域のにぎわいの創出に寄与する」というプラザの設置目的に基づき、以下の5つの基本方針を策定し、当財団だからこそ実現可能な主催事業や当財団が管理運営を行う他施設との連携事業など、市民の多様なニーズを捉えたオリジナリティに溢れた施設運営に取り組んだ。</p> <p>① あらゆる人々がつながり、交流するにぎわいの空間</p> <p>② 良質な文化芸術の提供</p> <p>③ 文化芸術の水準を高める拠点としての役割</p> <p>④ 文化芸術を担い、支える人々の育成</p> <p>⑤ 安全・安心・快適な施設環境の提供</p> <p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>▼ 札幌市の公の施設であることに鑑み、公平性を重視した運営を行うため以下の方針を策定し、実施した。</p> <p>① 公開抽選による施設申込 利用月13か月前の一斉受付による申込受付</p> <p>② 随時予約による施設申込 一斉受付終了後、空き施設を先着順で受付</p> <p>③ 優先受付による施設申込 長期の準備が必要かつ大規模な事業に限り、24か月前の受付 多岐にわたる分野に知識を有する専任職(マーケティングディレクター)を中心とし、受付の可否について慎重な審査を行った。</p> <p>▼ 特定団体の専有を防止し、多くの利用者への平等な利用を実現するため、連続利用を原則7日以内に制限している。</p>	<p>開館後の管理・運営を実施するに当たり、札幌市民交流プラザの設置目的を実現していくための基本指針とすることができた。</p> <p>施設の空き状況について、電話での問い合わせ対応やホームページで常時確認可能な状態とすることで、平等かつ公平な利用機会を広く市民に提供した。</p>	<p>A B C D</p> <p>5つの基本方針に基づいた運営を行い、多数の文化施設を運営している財団のノウハウを生かした事業を実施している。</p> <p>利用者や運営協議会での意見をもとに継続的に業務改善を図り、関係者間や市役所とも情報共有をしっかりと行っているほか、有識者の助言を事業に反映させるなど、市民サービスや管理水準の維持向上に努めている。</p> <p>継続して省エネルギーのための取り組みを実践しており、環境と経費削減の両面から効果を上げている。</p> <p>以上のとおり、本市の要求水準を満たす適正な運営管理を行っている。</p>

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

- ▼ 「札幌市環境基本計画」に順じ、環境保護、コストの縮減、職員への環境意識の啓発に努めた。
具体的な取組としては、空調を運転する時間の短縮等、市民サービスや空調管理が必要な楽器への影響を考慮しつつ、温湿度の効率的な運用を実施した。
また、不使用フロアの消灯や業務上合理的範囲内での間引き点灯などを行った。
- ▼ 札幌市環境マネジメントシステムに則り、エネルギー等の使用実績を集計し、省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出抑制に取り組んだ。

市民サービスの質を落とさずに省エネルギーに努めた。
今後職員の意識を更に高め、省エネルギーを促進していきたい。

エネルギー等の使用実績を基に、空調運転時間を短縮する等省エネルギーの推進及び温室効果ガスの排出を抑制することができた。

▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成）

- ▼ 市民交流プラザ事業部長（館長）を施設の統括責任者として配置している。
また、各課で行う事業特性や業務量を考慮し、適切な人員配置・責任体制を敷くよう努めた。
- ▼ 基礎的・専門的知識の向上のため、以下の職員研修を実施した。
 - ・ 4月 新規採用職員研修
個人情報保護・セクハラ防止研修・
新規採用職員接客研修（ビジネスマナー）
 - ・ 7月・11月・2月
接客スキル向上のための研修（管理課管理係）
 - ・ 12月 普通応急手当講習
 - ・ 2～3月 コンプライアンス研修
 - ・ 2～3月 管理職マネジメント研修

業務の実態に応じた人員配置や増員を行い、組織体制の適正化に努めた。
また、各従事者の能力向上のために多様な研修を実施し、施設の安定的な運営体制づくりに資することができた。

▼ 財団管理の各施設をネットワークで結び、共用のグループウェアソフトを活用することで、迅速かつ効率的な情報共有・意思疎通を図っている。
また、財団共用の財務・会計システム利用により、予算執行状況の把握・各種伝票の起票を効率的に行っている。

▼ 事業部内では職員だけではなく、清掃・警備・設備・舞台技術等の常駐委託業者とも上記グループウェアソフトを活用し、情報共有・連絡伝達を行っている。
情報共有の媒体を一元化することで、情報の分散を防ぎ、利用者・来館者への正確かつスピーディーな対応に繋がった。

▼ 各常駐委託業者と日常的に綿密な連絡体制を敷くことで、業務中に発生した問題等に対し速やかに報告を受け、対応を行った。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

▼ 業務仕様書に基づき、安全な施設運営を行うために必要な専門性を有する人材の確保、及び適正な業務履行の徹底を要請した。

委託者側、受託者側双方に責任者を置き、常に業務の実施状況を共有した他、受託者より提出を受けた業務完了報告書による履行確認を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

開催回	協議・報告内容
第1回 (R2. 5. 28)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 平成30年度の施設の利用状況について ▪ 利用促進に向けた取組について（クリエイティブスタジオ見学会、メンバーズ向け劇場見学会） ▪ 来館者向けアンケート実施案の修正について ▪ 平成30年度の施設利用者向けアンケートの結果について
第2回 (R2. 8. 26)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 令和元年4月～7月の施設の利用状況について ▪ 利用促進に向けた取組について（施設見学会等の実施状況、控室・練習室等のPRに関する取組） ▪ 有料ゴミ袋の販売について ▪ 令和元年4月～7月までの施設利用者向けアンケートの結果について
第3回 (R2. 11. 19)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 令和元年4月～9月の施設の利用状況について ▪ 利用促進に向けた取組について（避難訓練コンサートの実施状況、令和2年度のホールスポンサーの募集） ▪ 令和元年8月～10月までの施設利用者向けアンケートの結果について ▪ 令和元年8月～10月までの来館者向けアンケートの結果について

施設利用が多数入っている中、日常的な情報共有を迅速に行うことで、来館者への適切な対応ひいては市民へのサービス向上へ繋げることができた。

また、各常駐委託業者と綿密な連携をとることで、館の営業中に起きた問題等に速やかに対処し、管理水準の向上を図ることができた。

利用状況や利用促進の取組状況を報告し、そこから浮上した課題点について有識者等の外部委員より専門的見地から助言を得ることで、貸出備品の拡充など利用者の利便性向上に繋げることができた。

第4回 (R3. 2. 17)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 令和元年4月～12月の施設の利用状況について ▪ 利用促進及び利用者サービスの向上に向けた取組について (普通応急手当講習の実施、利用者向けWi-Fiの設置・運用、利用促進及び利用者サービスの向上に向けた取組の年間一覧) ▪ 令和元年11月～令和2年1月までの施設利用者向けアンケートの結果について ▪ 令和元年11月～令和2年1月までの来館者向けアンケートの結果について
<p><協議会メンバー></p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地元自治会：中央地区町内会連合会総務部長 ▪ 利用者：音楽事務所代表 ▪ 有識者：大学教授 ▪ 行政：札幌市市民文化局文化部長 札幌市教育委員会中央図書館長 ▪ 指定管理者：市民交流プラザ館長 事業推進担当部長 	

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

- ▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとに区分した経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。
- ▼ 現金等の取り扱いについては、現金取扱要綱を策定し、分任出納員として任命された職員による厳正な管理を行い、財団の内部監査や市による業務検査などで定期的な確認作業を行った。
- ▼ 現預金の入出金については、複数の職員による相互確認を実施し、不適切な処理が行われないようチェックした。

複数人体制での現預金の取扱や内部監査等の実施により相互牽制を行うことで、適正かつ透明性の高い資金管理を行うことができた。

▽ 要望・苦情対応

- ▼ 要望・苦情は発生次第速やかに対応を検討し、苦情担当部署及び館長とも共有した上で、対応を行った。
また、利用者・来館者から寄せられた要望・苦情については関係する常駐委託業者とも情報共有を行い、利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ ホームページにお問い合わせフォームを設け、問い合わせや要望・苦情が寄せられた際には、図書・情報館やその他の関係部署を交え対応を検討し、電子メール等で迅速な回答を行うとともに、今後の利用サービスの向上に繋げた。
- ▼ 市の関りが必要と考えられる要望・苦情については迅速に市へ情報提供を行った。

要望・苦情の対応事例を速やかに内部共有することで、管理運営上の課題の発見や運営水準の向上に反映させる契機とすることができた。

	<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）</p> <p>▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 管理業務に関する諸規程 ・ 文書管理簿 ・ 各年度の事業計画及び事業報告書 ・ 収支予算・決算に関する帳簿 ・ 金銭出納に関する帳簿 ・ 物品の受払いに関する帳簿 ・ 各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類 <p>▼ セルフモニタリングについては、来館者、利用者、主催事業の参加者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、半年ごとに業務検査や財務検査を行い、業務に関する自己チェックを実施した。</p> <p>▼ 札幌市への事業報告や事業評価等については、協定の定めに応じて提出をした。</p>	<p>業務の実施状況や利用者等の意見を適切に記録・保管することで、照会等への対応が円滑になるほか、サービス水準の維持、向上のために利用することができた。</p>									
(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しをおこない、労働基準監督署に届け出た。</p> <p>▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。 これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。 また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。</p> <p>▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアソフトにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。</p> <p>▼ 毎月の給与の計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、財団の総務部署を通じ、社会保険労務士事務所に委託しており、労働関係法令改正への対応についても、社会保険労務士と相談して行っている。</p> <p>▼ 当財団衛生委員会要綱に準じ衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康維持、職場環境の向上に努めている。</p> <p>▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の相談を含めて個別相談にも応じる体制を採っている。</p> <p>▼ 労働環境を向上させるため、年5日以上年の年次休暇の取得や業務の見直しなどによる時間外勤務の削減に努めた。</p>	<p>労働関係法令順守のため、管理職を中心に長時間労働に関する状況把握に努めており、業務効率化や繁忙期における業務分担の見直しなどにより、長時間労働の是正ができた。 また、年次有給休暇についても全職員が5日以上取得できた。 衛生委員会では、事業部内の労働環境に関する意見を聴取し、執務室内の書棚の転倒防止措置等、環境改善につなげることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>36協定の適正な締結、衛生委員会の設置、産業医や顧問弁護士の導入を行うだけではなく、時間外勤務の抑制や年次休暇の取得促進が実現する等、それら制度・期間が実効的に機能していると認められる。 新型コロナウイルス感染症の影響により、一部業務が繁忙となる部署もあったものの、時間外勤務の量を36協定の範囲内に収めるよう管理監督者の配慮も認められ、概ね適正な水準にある。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ 日常における施設の維持管理については、来館者の安全を最優先に心掛け、業務を遂行した。 ▼ 劇場内に一部落下防止用柵の取付を行い、来場者の持ち物の下階への落下防止に努めた。 ▼ 施設の利用環境の改善と安全性向上のため、定期的な巡回や点検を行っている。特に、施設内の共用スペースにおいては多数の来館者が往来するため、防犯カメラを設置・運用することで、非常時に的確・迅速に対応できるよう備えている。 ▼ 緊急対応時に備え、職員や常駐業者間で連絡体制を構築しており、急病人の発生等に迅速に対応した。 ▼ 施設損害賠償保険は全国公立文化施設協会で運営する、公共施設用に設計されたものに参加し、万一の事故に対応可能な体制をとっている。 ▼ 拾得物及び遺失物は、当館のみならずさっぽろ創世スクエア管理組合とも情報共有を図り、利用者からの問い合わせに対し即時に対応できるよう努めている。 なお、一定の保管期間が経過し、引き取りのない拾得物や貴重品については最寄りの警察署に引き渡し、適切な処理に努めている。 	<p>利用者の要望には、施設の設置目的及び公正性の観点から迅速に対応するとともに、安全確保に配慮して快適な利用がなされていると考えている。</p> <p>館内の定期的な巡回・点検を励行するとともに、警備の常駐委託業者と緊密な連絡体制を敷くことで、館内でトラブル等が発生した際も来館者に対し適切な対応をとることができた。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>関係法令を遵守し、点検についても適切に実施している。 また、安全面から必要な修繕を本市との情報共有により迅速に行っている。 加えて、さっぽろ創世スクエア管理組合とも緊密な連携がとれている。 以上より、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。</p>	A	B	C	D				
	A	B	C	D							
<p>▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼ プラザ内の各施設（劇場・センター・諸貸室）においては、計画的な清掃・警備を行い、美化・安全確保に努めた。 また、備付備品・貸出備品についても、こまめな点検を行い、常に最良の状態の利用者に提供できるよう維持・管理を行った。 後半は新型コロナウイルス感染拡大防止に備え、貸出施設や備品、利用者用ロッカー、エレベーター内操作盤等の消毒や換気には一層配慮して対応した。 ▼ 施設設備については、設備保守の常駐委託事業者と緊密な連携をとり、日々の点検の実施はもとより、不具合が発生した際は早期発見・対応できるよう体制を整えた。 ▼ 実務を行う舞台常駐委託業者の意見を参考にしながら、安全性を確保しつつ、貸館・主催事業において最高品質の演出効果を得るよう、定期的に舞台機構、設備の保守を実施した。 ▼ 施設への搬入用駐車場については、運用マニュアルを作成して管理運営する等、駐車場の利用者が安全、円滑に駐車できるように努めた。 	<p>利用者が安全かつ快適に利用できる環境を維持・推進し、施設に関する異変等には速やかに対応することができた。 また、事後の対応においても原因究明を徹底して再発防止に努め、適切に施設の維持管理を行うことができた。</p>										

	<p>▽ 防災</p> <p>職員および委託事業者の防災意識の向上、また災害時の適切な対応のシミュレーションを行うため、10月に札幌市消防音楽隊の協力のもと避難訓練コンサートを開催した。</p> <p>また3月には、防災マニュアルをもとに緊急時の各職員の役割分担や避難経路の確認、防災設備点検事業者による消火栓の使用方法等に関する講習会を実施した。</p>	<p>災害発生時の職員の役割や避難誘導経路等を確認するとともに、防災設備の使用方法等のプロによる講習の受講を通して、職員の危機意識を高め、災害時の来館者への対応について備えることができた。</p>									
(4)事業の計画・実施業務	<p>▽ 札幌文化芸術劇場に関する事業</p> <p>▼ 創造事業</p> <p>道内初の多面舞台を備えたホール機能を存分に活用し共同制作など「創造の場」としてオペラ・バレエ等の舞台芸術を展開し、市民が質の高い芸術文化に触れる機会を提供した。</p> <p>○ グランドオペラ共同制作 ビゼー作曲 オペラ「カルメン」(2公演) (神奈川県民ホール、愛知県芸術劇場、札幌交響楽団等との共同制作)</p>	<p>神奈川県民ホール、愛知県芸術劇場、札幌交響楽団等との共同制作によるグランドオペラ「カルメン」を開催し、市民に質の高いオペラ公演を提供することができた。また、地元声楽家による合唱団及び児童合唱団の参加等、オペラへの出演機会を創出し人材育成にも寄与した。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1273 589 1329 622">A</th> <th data-bbox="1329 589 1385 622">B</th> <th data-bbox="1385 589 1441 622">C</th> <th data-bbox="1441 589 1476 622">D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4" data-bbox="1273 622 1476 1108"> <p>本市の他文化施設も管理している指定管理者としてのネットワークを生かし、事業内容を充実させる工夫が見られる。精力的に多数の主催事業を実施し、市民へ文化芸術に触れる機会を提供しており、本市の要求水準を超える事業を行っている。</p> </td> </tr> </tbody> </table>	A	B	C	D	<p>本市の他文化施設も管理している指定管理者としてのネットワークを生かし、事業内容を充実させる工夫が見られる。精力的に多数の主催事業を実施し、市民へ文化芸術に触れる機会を提供しており、本市の要求水準を超える事業を行っている。</p>			
A	B	C	D								
<p>本市の他文化施設も管理している指定管理者としてのネットワークを生かし、事業内容を充実させる工夫が見られる。精力的に多数の主催事業を実施し、市民へ文化芸術に触れる機会を提供しており、本市の要求水準を超える事業を行っている。</p>											

▼ 鑑賞事業

多面舞台と最新の舞台機能を生かし、国内外トップクラスのオペラ、バレエなど本格的舞台芸術による「鑑賞の場」を多彩な内容で広く市民に提供した。

- プッチーニ作曲 オペラ「トゥーランドット」(2公演)
- 新国立劇場バレエ団「くるみ割り人形」(2公演)
- ゴジラvs札響～伊福部昭の世界～
- 上原ひろみ JAPAN TOUR 2019 “SPECTRUM”
- hitaru 午後のひととき
 - ～ギターデュオで奏でる初夏の夕べ～
 - ～チェンバロでひもとくヒット曲の秘密～
 - ～銀幕のマエストロたち～(中止)
- クリエイティブスタジオ活用事業
 - Noism2 金森穰振付 Noismレパートリー・「BOW!!!」(2公演)
 - めにみえない みみにしたい(3公演)
 - 風に聴くーみたびまみえるー(3公演)
 - Creative Opera Mix (クリエイティブ・オペラ・ミックス)(2公演)
 - All Sapporo Professional Actors Selection vol.1 「虹と雪、慟哭のカッコウ～SAPPORO’ 72」(10公演 ※13公演を予定していたが、新型コロナウイルスの影響で短縮)

東京文化会館、新国立劇場、びわ湖ホールと4館連携した国内外のトップクラスの出演者等によるオペラ「トゥーランドット」、オーディションにより選出された子役や地元合唱団も参加した新国立劇場バレエ団「くるみ割り人形」、劇場の大型スクリーンを使用した映画「ゴジラ」の映像を札響の演奏とともに楽しむライブ・シネマ公演、劇場のヤマハグランドピアノ選定者である上原ひろみの演奏会、気軽に実演芸術に触れてもらう機会を提供した「hitaru 午後のひととき」等、劇場の多面舞台と最新の舞台機能を生かした、多様な内容による舞台芸術作品の鑑賞機会を広く市民に提供することができた。

「クリエイティブスタジオ活用事業」では、クリエイティブスタジオを会場に、砂澤ビッキの作品を舞台美術としたモダンダンス公演「風に聴くーみたびまみえるー」、オペラをテーマに様々な分野による新規創造事業として制作した「クリエイティブ オペラ ミックス」等、多様なジャンルによる実演芸術の創造と鑑賞の機会を市民へ提供し、文化芸術活動の活性化を促進した。

▼ 普及・育成事業

先進の舞台芸術を広く市民に紹介するとともに、舞台芸術活動の将来を担う世代の育成を目的に、多彩な芸術文化作品の提供と、魅力的で芸術性の高い参加型事業を展開した。

- Noismメソッド+Noismレパトリー
舞踊経験者向けワークショップ
(Noism2 関連イベント)
- トーク&コンサート トゥーランドットの舞台裏
～アンダースタディの視点から～
(「トゥーランドット」関連イベント)
- バレエピアニストが語る
本当は深いバレエと音楽のおはなし
(「くるみ割り人形」関連イベント)
- 地図のワークショップ
(「めにもえない みみにしたい」関連イベント)
- 新国立劇場バレエ団ダンサーのピアノの生演奏による！バレエ経験者向けワークショップ
(「くるみ割り人形」関連イベント)
- hitaru 午後のひととき公開ワークショップ
チェンバロと歌うイタリア古典歌曲
(hitaruのひととき関連イベント)
- 市民交流プラザメンバーズ限定特別イベント
オペラ「カルメン」新演出の見どころ聴きどころ
～演出家・田尾下哲さんと共に～
(「カルメン」関連イベント)
- 青少年向けバレエ鑑賞事業
- 青島広志の楽しいオペラ講座
オペラ「カルメン」の魅力
(「カルメン」関連イベント)
- 公募企画事業
北海道ダンスプロジェクト主催
HDP DANCE PREMIUM 2019
〈併催事業〉ジュニアヒップホップワークショップ
&hitaru出演
〈併催事業〉北海道二期会オペラ「椿姫」Viva！
オペラ！Opera！オペラアリアによる
レクチャー&ガラコンサート イタリア・ヴェリズモオペラの世界～『道化師』を中心に
- 大学連携事業
〈札幌大谷大学・札幌文化芸術劇場hitaru連携事業〉
 - ・ アートプログラム2019 第1回
オペラ「トゥーランドット」
見どころ・聴きどころ
 - ・ アートプログラム2019 第3回
バレエ「くるみ割り人形」
見どころ・聴きどころ

市内の中学2年生18校約2,000人を劇場に招待し、青少年に人間性豊かな心を育むことを目的に、東京バレエ団によるバレエ公演の鑑賞を解説付で実施して、本格的な実演芸術を鑑賞する機会を提供できた。

また、公演に合わせて、内容を分かりやすく紹介する入門講座や事前トークイベント、人材育成を目的としたバレエ及びダンスのワークショップ、オペラ公演にアンダースタディとして派遣した地元出身の若手声楽家による成果発表コンサート等の実施を通じて、各本公演の理解をより深め、興味を持ってもらう機会を広く提供するとともに文化芸術活動に取り組む地元の芸術家の育成に寄与することができた。

▼ 交流事業

札幌文化芸術劇場hitaru、クリエイティブスタジオ札幌文化芸術交流センターSCARTS、札幌市図書・情報館など、さまざまなジャンルの事業展開が可能な札幌市民交流プラザの特性を生かし、多様な市民に参加・交流の場を提供して、多くの市民が文化芸術に触れることで施設のにぎわい創出に繋がる事業を実施した。

○ PLAZA FESTIVAL 2019

- Rhizomatiks Research×ELEVENPLAY×Kyle McDonald
「discrete figures Special Edition」
- アート×エンターテイメントの最前線
ー真鍋大度の創造性ー
(「discrete figures Special Edition」
関連イベント)
- 札幌爆音映画祭
- Collective P
ーまちとプラザをつなぐ搬入プロジェクトー
- プラザ・マルシェ2019

札幌市民交流プラザのオープン1周年に際し、全館を用いた交流事業「PLAZA FESTIVAL 2019」を開催した。

各施設の特性を生かし、劇場では、世界的に注目されている

「Rhizomatiks Research」等によるダンス公演、図書・情報館では、公演に合わせた関連トークイベント、クリエイティブスタジオでは、「札幌爆音映画祭」を実施した。

また、札幌のまち・ひと・公共施設をつなぐ参加・体験型のアートプロジェクト

「Collective P」、雑貨やフード等多様な商品が出品された交流型マーケット「プラザ・マルシェ」の実施等、様々な事業を通じて、多くの市民が参加して、交流できる場を提供することができた。

▽ 札幌文化芸術交流センターに関する事業

▼ 人材育成事業

ボランティアな活動を通して文化芸術と人々をつなぐSCARTSアートコミュニケーターの活動の促進、文化芸術に関わる人やアーティストを対象とした講座など札幌の文化芸術活動の質の向上を図ることを目的とした事業を実施した。

○ SCARTSアートコミュニケーション事業

札幌市民交流プラザを拠点に、アーティストや文化芸術に関わる専門家、SCARTSのスタッフとともに「市民とアートのつなぎ手」としてボランティアな活動を展開するSCARTSアートコミュニケーターに対する講座を行うとともに、実践活動・自主企画に取り組んだ。

○ SCARTSレクチャーシリーズ

文化政策、アートマネジメント等、文化芸術活動を行う上で重要な観点や知識についての講座のほかアーティストやアーティストを目指す美術学生等を対象とした講座を提供した。

- ・ for Artist vol.01「活躍の場を広げたい！アーティストのためのセルフプロデュース術」
 - ・ for Artist vol.02「作品の見え方が変わる！アーティストのための展示スキル相談室」
 - ・ vol.05「文化事業を評価するための統計分析入門～アンケートを有効活用しよう～」
 - ・ シンポジウム「アートセンターの未来」
＜座談会形式＞
 - ・ vol.06「心に触れる広報術。」
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

▼ 相談・調査研究事業

アーティスト・文化芸術団体のキャリアアップや活動活性化および質の向上を目的とし、文化芸術の情報収集・発信の場の提供、活動支援に関するサービスに加え、調査研究を実施した。

- SCARTSインフォメーションカウンター
- 文化芸術に関する情報発信
- 文化芸術活動サポートサービス
- 対面相談サービス
- 調査研究

アートコミュニケーター1期生によるSCARTSの主催事業の関連プログラムや自主活動を通して、市民と文化芸術をつなぐ創造的なコミュニケーションの場を創出することができた。

またアーティストを含む文化芸術に携わる方に対し、多彩なレクチャーを実施することによって、有益な学びの機会を提供するとともに、交流を促進することができた。

札幌における文化芸術に関わる情報を収集し、インフォメーションカウンターやウェブを通じて広く市民に発信するとともに、相談窓口を設置し、アーティストや市民等の活動支援に役立てることができた。

- ▼ 普及・発信事業
 話題性のある優れた文化芸術や、市民が文化芸術に気軽に触れる機会を提供する等、施設の多様な使用方法を提示し、札幌市民交流プラザ及び文化芸術交流センターの開館周知に繋がるイベントを実施した。
- 鈴木康広 雪の消息 | 残像の庭
 - ・ 関連事業：アーティストトーク、キュレーターによるギャラリートーク、SCARTSアートコミュニケーターによる関連プログラム
 - ++A&T～SCARTS ART&TECHNOLOGY Workshop Project～ぷらぷらっと
 - ・ 三宅唱プロジェクト：高校生ワークショップ①「映画のワンシーンを監督してみよう！」
 - ・ 乙女電芸部プロジェクト：アイデアソンとミニ・ワークショップ①
 - ・ ++A&T 01展示「三宅唱×SCARTS×札幌の高校生たち7月32日 July 32, Sapporo park」
 - ・ 三宅唱プロジェクト：ワークショップ②「映画のワンシーンを監督してみよう！」
 - ・ ++A&T 02 乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう！展』展示制作のためのワークショップ②
 - ・ ++A&T 02 乙女電芸部×SCARTS×札幌の中高生たち『乙女電芸部と札幌の冬を考えよう！展』
 - PLAZA FESTIVAL 2019
 - ・ 「Collective P-まちとプラザをつなぐ搬入プロジェクト-」
 - ・ 「プラザ・マルシェ2019」
 - まちなかお屋のおんがくかい
 - ・ 第7回 ～春の暖かな光によせて～
 - ・ 第8回 ～鮭×酒～
 - ・ 第9回 ～爽秋アンビエント・ミュージック～
 - ・ 第10回 ～寒鴉～
 - SCARTSオープンDAY
 - UNDER UNIVERSE : STUDIO ROCCA×SCARTS トークイベント
 - チェルフィッチュの映像演劇「風景、世界、アクシデント、すべてこの部屋の外側の出来事」
 - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度へ延期
 - 連携事業
 - ・ アートボランティアウィーク@SCARTS
 - ・ 砂澤ビッキウィーク
 - ・ さっぽろアートステージ2019
 - ・ Sapporo Winter Change 2020
 - ・ さっぽろ天神山アートスタジオ
 - ・ 2019年度国際公募AIRプログラム 2019-2020
 - ・ パッケージデザインコンテスト北海道2019展示会
 - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
 - 公募企画事業
 - ・ ARAMAKI WORLD+SHAKE SUMMIT
 - ・ ボーダレスアート in スカーツ
 - ・ 8人の女たち展
 - ・ 齋藤玄輔 THIS PLACE・THIS TIME 2020 sapporo
 - ・ 祝祭・モーツァルト in 北海道2020
 - ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度へ延期

札幌における文化芸術資産（もの・こと・ひと）と市民をつなぐための多様な機会を創出し、文化芸術の裾野を広げることができた。

また、連携事業や公募事業において、財団内施設を含め、様々な主体と連携した事業や、若年層を対象としたワークショップを実施するとともに、テクニカルスタッフによるSCARTS諸室の活用方法を提示する機会や実施事業のアーカイブ公開等を通して、センターの機能を周知することができた。

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等				A	B	C	D
		H30実績	R1計画	R1実績				
	劇場	件数(件)	135	253	226	令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、施設利用の取消しが相次いだことにより、劇場については目標稼働率を達成することができなかった。一方で、劇場以外の施設については、新型コロナウイルスの影響を受けながらも、前年度に近い稼働率を維持することができた。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年2月以降は稼働率が大きく落ち込んだものの、これは不可抗力と認められる。劇場については令和元年4月から令和2年1月までの稼働率は約8割を達成しているなど、市が求める水準を満たしているものと認められる。	
		人数(人)	171,216	—	352,325			
		稼働率(%)	91.8%	80.0%	72.6%			
	クリエイティブスタジオ	件数(件)	161	413	294			
		人数(人)	16,225	—	34,031			
		稼働率(%)	96.2%	60.0%	82.4%			
	練習室等	件数(件)	1,475	2,688	3,331			
		人数(人)	14,090	—	36,407			
		稼働率(%)	60.4%	60.0%	63.1%			
センター	件数(件)	1,327	1,298	2,587				
	人数(人)	219,200	—	315,427				
	稼働率(%)	90.6%	80.0%	80.9%				
※人数に図書館BDSは含まず								
▽ 不承認0件、取消し137件、減免2,701件、還付150件								
▽ 利用促進の取組								
▼ 一斉受付実施の告知 ホームページにて、次回の一斉受付の告知を毎月行った。								
▼ クリエイティブスタジオ見学会の告知と実施 舞台技術者同席のもと、年間5回の見学会を実施し、のべ1,145人の参加があった。								
▼ SCARTSオープンデイの実施 各回ごとにテーマを設定して入退場自由の見学会を行った。年間3回実施し、のべ375人の参加があった。								
▼ 練習室・控室の利用促進を図るため、PRチラシを作成し、市内公共施設や札幌市商工会議所やさっぽろ創成スクエア管理組合等に配布を依頼し、PRに努めた。								
▼ 利用者からのご要望の改善 利用者アンケートに基づき、利用者からのご要望のあった点を共有するとともに、改善に向けて検討を行った。								

(6)付随業務	▽ 広報業務		A	B	C	D
	<p>▼ 広報</p> <p>① 事業広報との連携強化 公演・イベントの周知、チケット販売促進や、施設入館者数の目標達成を目指し、情報誌等の印刷物やホームページ、SNS等の多様な媒体を活用して、札幌市民交流プラザの機能や事業の広報を積極的に行った。</p> <p>(1) 各種パブリシティの活用及びメディア対応 プレスリリースやメディア対応等を積極的に行い新聞、雑誌、テレビ、ウェブメディア等の各種媒体を活用した広報活動を展開し、事業周知とチケットセールスの促進を図った。</p> <p>(2) 地下鉄パンフレット広告 主要駅の地下鉄フリーパンフレットコーナーにて情報誌「WAVE TIMES」や「PLAS」、主催公演チラシ等を配架した。</p> <p>(3) 協賛広告枠の活用 札幌文化芸術劇場hitaruオフィシャルスポンサー企業の広告協賛等を活用し、地下鉄大通駅コンコース及びオーロラタウン、丘珠空港、市内大型スーパーマーケット、路線バス車内等において動画の放映やチラシの配架、ポスター広告の掲示等を行った。</p> <p>② 広報印刷物の制作</p> <p>(1) 情報誌「WAVE TIMES」 札幌市民交流プラザの情報誌「WAVE TIMES」を4回（5月、8月、12月、2月）発行し、区役所等の市内公共施設や関係団体へ送付したほか、公演・イベント会場等でも広く配布した。また、施設が開館して1年となる10月に、オープニングシリーズ全事業の紹介や利用者の声等を掲載した「特別号」を増ページ（全36ページ）で記念発行した。</p> <p>(2) イベントスケジュール冊子「PLAS」 札幌市民交流プラザを構成する3施設の公演・イベントを掲載するスケジュール冊子「PLAS」を6回（5月、7月、9月、11月、1月、3月の各月20日）発行し、区役所等の公共施設や関係団体へ配布した。</p> <p>(3) 「創成おさんぽMAP」 近隣地域のにぎわいを醸成するため、札幌市民交流プラザメンバーズ会員向け特典提供店を紹介する地図形式の冊子をB3判ジャバラ折B6仕上げで作成しメンバーズ（DM会員）に送付したほか、協力店舗や札幌市民交流プラザ館内各所で配架した。</p> <p>(4) プラザフェスティバル関係 施設開館1周年記念で行われたプラザフェスティバル開催に際し、リーフレットおよびフラグバナーを作成した。</p>	<p>「WAVE TIMES」や「PLAS」の発行、ホームページのリニューアルやSNSの活用、各種媒体での広報展開により、プラザ内で行われる主催事業等の告知を行いチケット販売促進に一定の効果をもたらすことができた。</p>		<p>公式ウェブサイトやSNS、情報誌での情報発信を行い、広くイベントや施設について広報に努めている。</p>	<p>メンバーズの会員やスポンサーも数多く集めており、市が求める水準を満たしているものと認められる。</p>	

- ③ ホームページ
- (1) ホームページの改善・SNSの活用
 ホームページを通じて、主催事業や貸館公演などのイベント情報を随時発信し、広く札幌市民交流プラザの周知を図るとともに、英語ページも作成し、外国人向けに情報発信を行った。ウェブアクセシビリティへの対応にも留意し、JISX8341-3:2016の適合レベルAA準拠を維持した。
 また、Twitter、FacebookといったSNSも活用し、即時性のある情報を発信した。
- ・ ホームページアクセス数
 令和元年度:1,647,311件
 (参考)平成30年度:1,228,903件
- (2) プラザフェスティバル特設ページ
 施設開館1周年記念で行われた「プラザフェスティバル」に際し、期間限定の特設ページを作成した。

▼利用促進

- ① 施設利用に関するチラシの発行
 札幌文化芸術劇場hitaru及び札幌文化芸術交流センターSCARTS諸室の貸館利用促進に向け、地元興行主との情報交換を密にするほか、「ご存じですか？プラザの貸室使い方がいい」を新規に作成・配布して会議や練習での利用を促した。
- ② 会員制度
- (1) 会員制度の募集及び運営
 平成30年2月15日から引き続き会員制度「札幌市民交流プラザメンバーズ」を募集。令和2年3月31日までにWEB会員26,325人、DM会員1,438人、計27,763人の会員を集めた。
- (2) 会員特典
- ・ メールマガジン配信（WEB会員向け、原則1ヶ月に2回）
 - ・ ダイレクトメール送付（DM会員向け、原則奇数月）
 - ・ hitaru主催公演のチケット先行発売
 - ・ プラザ内カフェ・レストランでの優待
 - ・ 近隣のホテル・飲食店等での各種優待
 - ・ 施設見学会実施
 - ・ 避難訓練コンサート実施
 - ・ リハーサル見学企画（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）
- ③ 協賛制度の募集及び運営
 札幌文化芸術劇場hitaruの主催共催事業の充実を目的とする「hitaruオフィシャルスポンサー」制度を運営。
 令和元年度のスポンサーとして、法人105社、個人81人、計186件（9,543万5千円）の協賛を獲得した。

▼ 共催事業の誘致

これまで札幌での開催が少なかった大規模公演開催の促進と、札幌市民交流プラザメンバーズに多彩な公演をご案内することで新たな聴衆を確保するため、民間事業者等と連携して共催事業としてミュージカルや落語の誘致に向けた取り組みを進めた。

- ① さっぽろ落語まつり
 入場者数：3日間6公演 合計9,720人
- ② ミュージカル「レ・ミゼラブル」
 入場者数：8日間11公演 合計23,925人

施設利用に関するチラシ「ご存じですか？プラザの貸室使い方がいい」を作成・配架、施設見学会等の取り組みについて周知するなど、施設利用者に施設についての理解を深めてもらい利用の促進につなげることができた。

両事業ともチケットが完売となり、好評を博した。

		A	B	C	D
▼ 自主事業 ▼ カフェ、レストラン事業 施設の賑わいの創出や来館者へのおもてなしのため、カフェ「MORIHICO. 藝術劇場」とレストラン「DAFNE」を営業。自家焙煎のコーヒーや新鮮な道産食材を使用したメニューを提供した。また、レストランのテイクアウトに限定した牛肉や海老を使ったカレーの販売をはじめ、道産牛肉の柔らかい部位のみを使用したり、コーヒーで炊き上げたご飯を組み合わせるなど、コーヒー専門店ならではの工夫を凝らし、近隣の飲食店との差別化を図った。		地元の事業者が主に道産食材を使用したメニューを提供しており、北海道の食文化を発信する機会となっている。また、施設のイメージアップやPRにもつなげることができた。		カフェ・レストランについては一定の集客により、プラザの賑わい創出に貢献しているほか、自主事業に係る経理も適切に行われている。 レストランについては売りに上げに課題があるものの、テイクアウト等の試みをプラザを挙げて実施しており、経営努力が認められる。	
▼ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ▼ 市内企業等の活用 施設の管理運営に必要な再委託業務について、概ね札幌市内に事業所を有する企業に発注した。		再委託業務について市内企業への発注を行うなど、市内企業の活用に努めた。			
▼ 福祉施策への配慮 イベントの広報印刷物の封入作業を、近隣の福祉施設に発注した。 また、設置している自動販売機のうち1台を、札幌市内の社会福祉団体に依頼した。		また、福祉施設・団体への発注を行い、福祉施策の推進に努めた			
3 利用者の満足度					
▼ 利用者アンケートの結果					
実施方法	施設を利用する主催者へアンケート用紙を配布。施設・設備の使い勝手の良さや、職員対応等に対する意見・要望の把握に努めた。	お客様からのご意見・ご要望をデータベース化し、職員へも共有を行うことで、以後の対応に活かすことができるよう努めている。 また職員だけではなく委託業者に対しても、定期会議の場を設け、お客様からの要望を共有するよう努めている。		A B C D 要求水準に倍する回答をあつめ、満足度も水準の80%を大きく超える結果を得ている。 アンケートで寄せられた意見にも対する改善も行っており、市の要求水準を超えた事業を行っている。	
結果概要	貸館利用者の施設に対する総合的な満足度は89.9%、職員対応の満足度は92%であった(「満足」「おおむね満足」合計)。 また98.5%の利用者がまた利用したいと回答した。				
利用者からの意見・要望とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ きれいで利用料も安く使いやすい ・ 申請書の捺印を不要にしてほしい/使用承認までの手続きをもっと簡易にしてほしい → 現在事務手続きについて検討中 ・ テーブルに傷があった → 利用後点検を職員で実施、備品のチェックを都度行っている 				

4 収支状況

▽ 収支 (千円)			
項目	元年度計画	元年度決算	差 (決算-計画)
収入	1,354,597	1,441,041	86,444
指定管理業務収入	1,329,496	1,413,913	84,417
指定管理費	878,544	878,544	0
利用料金	239,637	211,092	▲ 28,545
補償金	0	27,470	27,470
その他	211,315	296,807	85,492
自主事業収入	25,101	27,128	2,027
支出	1,529,057	1,504,843	▲ 24,214
指定管理業務支出	1,505,030	1,480,564	▲ 24,466
自主事業支出	24,027	24,279	252
収入-支出	▲ 174,460	▲ 63,802	110,658
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 174,460	▲ 63,802	110,658

▽ 説明

- ▼ 利用料金収入に関しては、新型コロナウイルスの影響により当初計画より減少したが、広報活動により入場料収入や協賛金が大きく増加した。
- ▼ 支出については主催事業における諸謝金、支払負担金、委託費等の削減努力により計画時より減少した。
- ▼ 全体では63,802千円の赤字であるが、当初計画よりも110,658千円の大幅な収支改善となった。

新型コロナウイルス影響により利用料収益は減少したが、広報努力により入場料収益や協賛金が増加したため、収入全体としてはプラスとなった。

支出についても経費削減に努め、全体の収支としては計画よりも大幅に改善することができた。

A	B	C	D

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、利用料金収入が計画を下回ったものの、自主事業収入の増や、支出の削減といった努力により収支を大きく改善している。

要求水準を上回る業務を行っていると思われる。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

- | | | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|---|----|
| ▽ 安定経営能力の維持
当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。 | | 適 | 不適 |
| ▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対処した。
▼ 情報公開請求はなかった。
▼ オンブズマンについては、案件は生じなかった。
▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。 | | 適 | 不適 |

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>【管理運営事業】 通年での施設稼働が開始する初年度であったため、業務量を適正に把握し労働環境の向上に注力するとともに、アンケート等で市民の声を積極的に取り入れ、運営水準のさらなる向上に努めた。 利用状況については、見学会やPRチラシ等の広報活動を積極的に行い、施設の利用方法を広く市民に紹介したことにより、昨年度に引き続き、劇場・練習室等・センターともに高い利用率となった。 年度末には、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、貸館利用中止を余儀なくされる利用者も多くあったが、状況に応じ緊密な連絡をとり、適切な対応をとることができた。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 多面舞台と最新の舞台機能を生かした、質の高い舞台芸術に触れる機会を提供し、文化芸術に関心をもっていただくよう様々な事業を展開することができた。 また、青少年向けのバレエ鑑賞事業、地元芸術家の育成、多様なジャンルの事業を実施したことにより、札幌市の文化芸術の振興に一定の成果をあげることができた。 さらに、新規創造事業「Creative Opera Mix」では、すべて地元アーティストを起用し、異なるアートの融合による相乗効果を生み出したほか、オペラ、ダンス、DJ等の各ファン層に楽しんでいただくとともに、これまで足を運ぶことがなかった分野の舞台芸術を鑑賞する契機となった。</p> <p>・札幌文化芸術交流センター 様々な先進性のある展示や公演などにより、市民が文化芸術に触れる多様な機会を創出した。 特に市民や観光客などの創造性を喚起することをねらいとしてメイン展示に据えた鈴木康広展では、約1か月という長期間にわたり、身近なものや出来事にも新たな捉え方が可能であることを示すことができた。また、アートを紹介した、ひと・もの・ことをつなぐ使命に基づき、地域の魅力向上への貢献を意識し、市民参加や交流の場を設けるなど、にぎわい創出の一翼を担うことができた。</p>	<p>【管理運営事業】 第2期指定管理期間では、第1期で見えてきた課題や利用者ニーズを踏まえ、札幌市民交流プラザの設置目的をより高いレベルで実現できるよう、組織体制の強化、個々の職員のスキルアップを目指す。また、複合施設であることの特性を生かせるよう、3施設の情報共有の仕組みをより強固なものにしていく。 その一環として、第2期指定管理期間のスタートに合わせて、これまで事業課単位で分かれていた企画専門委員会を統合し、利用者の立場、市内外の有識者の視点も取り入れ、市民交流プラザ全体の魅力をさらに高め、発信していくための土台作りに努める。 貸館事業については、様々な形態の施設を保有しているため、それぞれの施設に合った使用方法や当館スタッフのサポート体制などについて、多くの方に知っていただくための広報活動にも引き続き注力していく。 なお、新型コロナウイルス感染症への対応については、当館職員の感染対策はもとより、利用者への感染予防策の徹底についてご協力いただくとともに、当館における感染予防対策への取組について、掲示物や公式ホームページ、広報誌などで広く周知することで、安心して多くの方にご来場いただけるための環境整備に努める。</p> <p>【主催事業】 ・札幌文化芸術劇場 大規模で質の高いオペラやバレエ公演などの鑑賞機会を引き続き提供していくとともに、第2期指定管理期間においては、創造型劇場の取組を更に推進するため、市内で活動する実演芸術団体、芸術系大学、アーティスト、舞台技術者と共に札幌及び北海道発の実演芸術を創造する「hitaruオペラプロジェクト」、「hitaruバレエプロジェクト」に着手する。 また、クリエイティブスタジオでは、質の高い多様なジャンルの公演を継続して展開することで、市民が舞台芸術との出会う機会を創出していく。 なお、次世代を担う青少年(中学2年生)を対象としたバレエ鑑賞事業については、豊かな感性を育む事業として、引き続き実施するとともに、大学等との連携により舞台芸術を支える様々な分野の人材育成にも注力していく。</p> <p>・札幌文化芸術交流センター 第2期指定管理者期間のスタートを契機として、事業の柱を「文化芸術の普及・発信、にぎわい創出事業」「文化芸術活動支援事業」「文化芸術に関する調査研究事業」に変更した。 第1期では、開館直後だったため個々の事業の立ち上げに注力せざるを得ない状況にあったが、今後は、個々の事業を有機的に連携させることで、SCARTSのミッション実現を目指していく。 また、SCARTSが単なる貸しスペースではなく、札幌市の文化芸術活動の拠点として、文化芸術団体やアーティストの活動に様々な支援を実施していることについて、文化芸術関係者をはじめ、多くの市民に積極的に周知を図ってきたい。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>全体的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営が行われている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を除けば、引き続き好調な入館者数や稼働率を達成しており、多くの市民に利用してもらうことができているうえ、アンケートの結果によれば、満足度も十分に高く、評価できる。</p> <p>貸館の営業も積極的に行い、稼働率は増加傾向にあるほか、スポンサー制度という独自の制度も実施し、稼働率及び利益の確保に努めている点も評価できる。</p> <p>今後も本格的な舞台芸術の公演を予定し準備を進めているところであり、新しい生活様式に対応しつつ、引き続き、札幌市の文化芸術の拠点として市民に質の高い文化芸術に触れる機会を提供してゆくことが期待できる。</p>	<p>前回評価時に大きな課題であった職員の長時間労働については、開業当初の繁忙が原因であったこともあり、大幅に改善されたものと認められるが、引き続き、職員の労働環境の向上に努められたい。</p> <p>また、自主事業のレストランについては収益に課題を抱えていることから、テイクアウト等の経営努力を継続するとともに、集客のための試みに努め、今後の経営が改善されることを期待する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術の催しの在り方が大きく変動している中で、検温や消毒等、感染症拡大防止の対策を実施することはもちろん、新たな様式に戸惑いを感じる利用者も一定数想定されることから、そのような利用者からの声も拾い上げ、説明を要するところは説明し、対応が可能なところは対応する等、多くの方が安心して利用できる施設となるよう努められたい。</p>